



第43号  
〈発行〉  
日置地区  
社会教育振興会  
〈事務局〉  
鹿児島教育  
事務所

## 「持続可能な地域づくり」とは

日置地区公民館経営研究会

10月9日(水)、東市来文化交流センターで開催され、公民館関係者56人が参加しました。

**事例発表**  
「皆田地区公民館における地域活性化への取組について」  
皆田地区公民館長 脇田 敏秋

廃校後の皆田小学校を地区公民館として活用し、地域活性化を図った取組を発表されました。

語らいの中で課題と解決策を見つけ、安心・安全な活気ある皆田の郷づくりを基本理念として、様々な行事や事業を工夫していました。特に、住民だけで「憩いの場(ピザ窯・釜戸)」を作った

り、「キクイモ」などの

特産品を開発したりするなど多彩な取組が行われていました。



事例発表をする脇田館長

外ではあまり見られない取組もあり、参加者からは「少子高齢化等の地域課題が山積する中で、前向きに工夫しながら取り組んでいる姿は素晴らしい」等の感想が寄せられました。

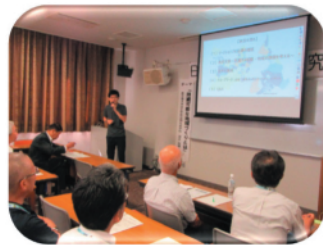
**ワーク**  
**ショップ**  
コーディネーター  
鹿児島大学法文学部准教授  
酒井 佑輔

学生の力を

地域に取り入れていく「アクティブ・ゼミ」で得られた失敗事例を

もとに、「持続可能な地域づくり」で気を付けること

等についてご講話をいただきました。  
変わるべきは地域の大人  
「何のための連携・協働か」「地域の大人が変わらないといけない」「リーダーが居なくなっても存在する組織」等、持続可能な地域づくりについて、多くの示唆を与えていただきました。



酒井先生の講話

グループワークでは地域課題を出し合い、その解決について意見交換

を行いました。「若者が意見を言える場の工夫」などの発表もあり、参加者が公民館活動や地域の活性化のための大きなヒントを得ることができたと思います。

## 地域が育む「かごしまの教育」県民週間

県では11月1日～11月7日の期間を「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」として設定しています。

学校・家庭・地域社会のより一層の連携と協力のもとに、県民一人一人が本県の教育について考える気運を高め、教育の充実と発展を図るものです。

地区内の小・中学校では地域の方々に子供たちの学びの姿を見ていただくために、様々な行事を実施し、子供たちとの交流を深めていました。



右の絵画は、今年度の県民週間ポスター原画の部で最優秀賞を受賞した十島村立諏訪之瀬島小4年の濱田千明さんの作品です。

## 日和下駄

### 夏休みの風景

日置市教育委員会  
教育長 奥 善一

カードを首から下げて、眠い目をこすりながら、子供たちがあちこちから集まってくる。今も昔も変わらぬ夏休みの風物詩。ラジオ体操が、今夏もあちこちで行われた。

かつて、子供たちの一日はひたすら長く、夏休みは、やりたいことが何でもできそうな夢の40日間だった。子供たちから三つの「間」(時間・空間・仲間)がなくなったと言われて久しい。その原因の一番手は、東京五輪と同時に茶の間に登場したテレビであり、二番手はテレビゲームだった。現代は、スマートフォンが主役である。

世の中が便利になる中、車・社会は歩く機会を、メディア・社会は読書や直接体験の機会を、そして、A・I・社会は、直接体験と自ら創造する機会をも脅かしている。

来年は、また東京五輪がやってくる。世の中がどれだけ進展しようとも、子供にとって何より大切な潤沢な時間と自他を思いやる心のゆとりを、そして、仲間と遊び回るゆとりした夏休みを残してあげたいものである。

「朝顔につるべ取られて  
もらい水」(加賀千代女)



## 子どもハローワーク事業

いちき串木野市教育委員会  
市民による子どもたちと未来のための教育活動の展開

いちき串木野市の教育振興基本目標は「ふるさとを愛し、夢と志を持ち、心豊かでたくましい人づくり」です。

本市ではこの実現に向け、子どもたちが企業や地域が行う仕事やイベントの手伝いをボランティアとして体験する「子どもハローワーク事業」を行っています。

この事業では、「ふるさと教育」と自らの人生の指針を描く「キャリア教育」により、ふるさとへの誇りを育て、子どもたちの未来創生への道を切り拓いていきます。

地域の人々に支えられ、学んでいくことで、地域への愛着や地域の担い手としての自覚が芽生え、やがては地域の創生につながることを期待できます。

市内の各中学校では中学三年生で



海上保安部船「りかぜ」での実習  
職場体験学習を実施しています  
この事業は、中学生なら何年生でも何回でも自分のしてみたい職種を体験できることが特色となっています。

ます。

本年度は夏季休業中に地元企業である18企業に協力を頂き、25名の中学一・二年生が参加しました。

### 事業の流れは

- 一 企業から社会教育課への依頼
- 二 社会教育課との打ち合わせ、募集票作成
- 三 学校や市HP等で募集
- 四 社会教育課にメールやFAXで申込
- 五 社会教育課で保険加入（一回登録で年間何回でも利用）
- 六 ボランティア体験
- 七 事後報告（企業からの報告・体験者からの報告）

参加者からは「一番思い出に残っていることは、りかぜでの体験航海です。めったにできない船の操縦などができたからです。」という感想がありました。また、保護者からは、「小さな学校での職場体験は限られた職場のみになってしまうので、このような事業があると、子どもたちもいい経験ができるのでよかったです。働くことの厳しさも少しは分かってもらえたようで、よかったと思います。」という声も寄せられました。

## 羽島南方神社太鼓踊

いちき串木野市教育委員会

8月26日、羽島南方神社太鼓踊が開催されました。当日は、午前9時頃から、神社近くの広場で、手取ヶ丘の山の神に対して踊りを奉納します。踊り終えると踊衆は、神社の鳥居下の階段に移動し、午前10時から始まる神事が終わるまで階段に腰掛け待ちます。

神事が終わると、「アラマキ（稲わらで猪の肉を包んだもの）」という藁筒を、代表者二人が鳥居のそばの太木の枝に引掛かるまで、何回も投げます。この行為を「アラマキ投げ」と言い、県内の太鼓踊の中でも羽島南方神社太鼓踊だけで行われています。

「アラマキ投げ」が終わると、鳥居の外で待っていた太鼓踊の一団が太鼓と鉦を打ちながら境内に入ってきて踊りを奉納します。今年は、小学生2人、中学生9人を含め22人が太鼓踊に参加しました。

この羽島南方神社太鼓踊は、昭和62年2月26日に市の指定無形民俗文化財に指定されています。



羽島南方神社太鼓踊  
化財に指定されており、脈々と地域の青少年に踊り継がれています。

## 女性団体の交流研修

十島村教育委員会

本村には、7つの島に女性団体が組織され、様々な地域行事やイベント等で活動しています。

今回、他地域の女性団体との交流を図るということで7月25日、26日にかけて本村の女性団体の代表者7名が、南九州市女性団体連絡協議会及び指宿市地域女性団体連絡協議会を訪問しました。

それぞれの団体から組織や活動状況について説明がありましたが、どの団体でも若い人の参加が少なくなってきている現状があり、会員の確保に苦労されているということでした。

それで、女性団体の意義や活動を知ってもらうために、毎年、新聞を発行したり「ふるさとを興す学習大会」を開催したりして、関心を持つてもらおうように工夫しているということでした。

二つの団体との交流研修を行うことで女性団体としての共通の課題や今後の活動の在り方などお互いに意見を交換することができました。改めて地域作りに果たす女性の役割や自分自身の生き方を見つめ直す機会となりました。



意見交換



## ふれあい達志塾

日置市教育委員会

達志塾では、湯田校区内の各種団体責任者及び構成員で結成されている「湯田校区子供を育てる会」の方々が、各コースの指導者として参加し、校区内の各スポーツに分かれ、それぞれで違った遊びを子供たちと一緒にしています。

この事業は、平成11年から続いており、今年が20回目の実施となりました。年2回夏と冬に行われており、各季節に応じた活動を実施しています。

## 「夏のふれあい達志塾」

7月28日(日)、東市来町湯田校区内で開催されました。多くの子供たちが積極的に活動に参加しました。参加者は湯田小学校の児童で、指導者と合わせて152人が集まり、「上野西(山)」「皆田(川)」「湯田小図書室」「湯田小家庭科室」「湯田小校庭」「湯田小図工室」「稲荷神社」の七箇所に分かれて活動しました。保護者の参加者も多く、子供を送迎した後、そのまま子供たちの活動を見守っていました。



滑車遊び

屋外での活動では、山での滑車遊びやブランコを体験する子供たちもいれば、川で魚釣りをする子供たちなど、それぞれの活動を楽しんでいました。

屋内での活動では、手芸細工やお菓子作りを行い、普段体験できないことに取り組み組んでいました。

参加した子供たちからは、「自然の中でおもいっすり遊べて楽しかった。」「お菓子の作り方が学べて嬉しかった。」等の感想がありました。

## 「冬のふれあい達志塾」

冬のふれあい達志塾では、凧作りやしめ縄作り、メンコ、こま、羽根つき等の活動を計画しています。冬の寒い時期に、身体を動かすきっかけにもなるように、屋内での活動が中心となっています。夏同様、多くの方々に参加してくれることを願っています。



お菓子作り



川での魚釣り

事務局の湯田小学校の教頭先生は「この事業が今後絶えることなく続いていくためにも、子供たちだけでなく、指導者の後継となる方々にも受け継いでいってほしい。」と話していました。

## 「湯田校区子供を育てる会」

会長の久留明博さんは、「子供たちには、今、地元にいる方々とのふれあいを通して、昔はこんな遊びをしていたということを感じてほしい。また、指導者の方々にも、子供たちの遊ぶ姿を近くで見ながら、元気を貰っていただければと思う。子供たちが大きくなり県外に出ることになっても、このことを思い出してほしい。郷土愛によって、将来、地元に戻ってきてくれる子供たちが少しでも増えてほしいと思う。」と話していました。

湯田校区子供を育てる会は、学校・家庭・地域社会がそれぞれの役割分担を果たしつつ、相互に連携し、補完し合い、融合し合って、湯田校区在住の青少年の健全育成を図るとともに、地域社会の活性化、住みよい町づくりを進めることを目的として、今後も活動を工夫しながら進めていきたいと思っています。



## 三島っ子ジャンベツアー2019

三島村教育委員会

8月25日(日)～9月3日(火)の十日間「三島っ子ジャンベツアー2019」が実施されました。

三島村とギニアのバランドウグ村との交流が始まったのは、1994年の夏にさかのぼります。それから25年間、三島村とギニアの交流は途切れることなく続きました。そして、いつしか「ギニアの子どもたちを三島村に呼びたい」ということが三島村の願いとなっていました。その願いが、この夏、実現したのです。ギニアの子ども4名と横浜で合流した三島村の中学生は、アフリカ国際会議のイベントや「野口英世アフリカ賞」授賞式、東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンのイベントに参加するなど様々な場面でアフリカ・ギニア伝統の太鼓「ジャンベ」を一緒にたたき、横浜での貴重な一週間を過ごしました。



ジャンベを叩いて

その後、硫黄島に移動し、三島村の小・中学生全員が集まって「集合学習」をすることもできました。これからも、小さな三島村とアフリカの村との国際交流は、深い友情に支えられて続いていくことでしょう。

ふるさとを興す保健・福祉学習大会及び  
組織・教育・食料・環境学習大会  
日置地区地域女性団体連絡協議会

8月23日(金)、日置市日吉老人福祉センターにて205人の参加者のもと盛大に行われました。

前半の「保健・福祉」の部では、県民総合保健センター山本聖子健康増進部長の講演がありました。

「心と体のセルフメンテナンス」というテーマで、元気に若々しい健康づくりのための「筋膜ケア」について教えていただきました。



凝り固まった体をほぐし、コリ、むくみなどの不調を解消し、体全体の機能を高める運動を全員で行いました。

### 共生・協働で地域の絆を

後半の「組織・教育・食料・環境」の部のシンポジウムでは、「誰もが明るくいいきと暮らせる環境づくりのために」のテーマで3人の登壇者が提言を行いました。

### 日吉地域女性連会長の勝田さん

少子高齢化が急速に進む地域の中

### 「乳幼児を持つ母親教室」

で、ブックスタート事業や子育てサポート事業等の子育て支援や様々な事業を地道に取り組んでいること等を発表しました。

### 日置市市民生活課の當寺ヶ盛さん

### 羽島地区婦人部の梶さん

地域女性連と行政が連携することでごみ減量が図られ、環境にやさしい街づくりができていくこと等を発表しました。

### 女性連の組織力を発揮！

ディスカッションではフロアーから活発に意見が出され、地域の教育力や地域ぐるみによる子育ての重要性を再確認できました。

女性連運動を次世代につないでゆくためにも女性連の組織力を今発揮すべき時だと感じました。



### 日置地区PTA正副会長等研修会

### 《兼 鹿兒島地区人権教育ブロック別指導者研修会》

### 「誇りをもって生きる」

### 長胴太鼓仮張り実演

7月6日(土)、日置市中央公民館で開催し、各市P連、関係者等135人の参加がありました。

講師は、伊集院町にある宮丸太鼓店主の宮内礼治さんです。



宮内さんは部落解放同盟鹿兒島連合会書記次長として、小学生から大人まで幅広い年齢層を対象に県内の様々なところで、講演会や太鼓作りの実演を行っています。

本研修会でも太鼓づくりの実演をしながら部落差別や職業差別について自らの生い立ちを通して感じ考えたことを話され、参加者は熱心に聞いていました。

### 人権感覚を磨こう

参加者から、次のような感想や意見がありました。

- 部落問題について当事者の方から話を聞くことはあまりないので、よい機会でした。
- 演題と太鼓作りとの関係性も初めて知りました。
- まさに「誇りを持って生きていく」姿に大変感動しました。
- 部落差別の根本は一人一人の無知によるものだと思った。子どもにもきちんと伝えたい。

太鼓づくりの技術が脈々と受け継がれてきた歴史の重みに思いを馳せた参加者もいました。



宮内礼治さん

本研修会で高まった人権課題への意識が各PTAの学習に広がり、多くの方の人権意識の高揚につながることを期待します。

### 編集後記

令和元年も残りわずか。地球温暖化の影響でしょうか。甚大な被害が多発しています。来年は東京オリンピック、鹿兒島国体の年です。大きな災害が起こらないことを祈りたいと思います。(事務局 田中)